

第19回原子力安全検証委員会 議事速報

1. 「原子力発電の安全性向上に向けた自主的かつ継続的な取組みのさらなる充実（ロードマップ）」の取組状況および監査結果

「原子力発電の安全性向上に向けた自主的かつ継続的な取組みのさらなる充実（ロードマップ）」の報告書作成の考え方、2019年度上期の進捗状況・同監査結果、および2019年度下期の計画について報告し、審議。主な意見は以下のとおり。

- トンネル内で溶接機やフォークリフトなどエンジン付機器を使用する際には、一酸化炭素濃度だけでなく酸素濃度も測定すべき。また作業に際しては、最初に送気を行い、安全を確認した上で開始する手順が必要ではないか。（小澤委員）
- エンジン付溶接機をあえて使用する理由があったのか。使用した業者に問題があったのか。設計、発注、工事管理の何に問題があり原因だったのか、きちんと整理する必要がある。（田中委員）
- 基本動作を遵守するためには作業チーム内で価値観が共有されることも大事。難しいと思うが、例えば、チーム内で一歩立ち止まる価値観が共有されたことを事実に基づいて確認していくことが重要である。（荒木委員）
- 協力会社が実施するリスクアセスメントを関西電力としてどのようにチェックしているのか。計画段階に加えて実施結果を確認することが重要である。（渡邊委員長）
- 協力会社によるリスクアセスメントを関西電力がチェックする際に、現場作業のリスクを理解している者が確認する必要がある。目に見えないリスクは数多くの現場を経験した者でないとわからない部分もあり、そういう人材の育成や確保も必要である。（小澤委員）
- 労働災害はゼロを目指すべきもの。原子力発電所での労働災害は社会への影響が大きく、その事を十分自覚して取り組んでいただきたい。（渡邊委員長）

- リスクマネジメントの取組みの一環として、労働災害の撲滅に向けて様々な取組みを行っているが、結果が出ていないのはどこかに問題があるということ。ポイントを基本動作が遵守できていないことに帰着させているが、技術的な分析が不十分。今回の重大事故は決して予見できなかったものでなく、リスクアセスメントや現場でのリスクの共有ができていなかったのではないか。(山口副委員長)
- リスクコミュニケーションで40年以降の運転について説明する際には、米国など海外における実績も参考になると思うので、紹介してはどうか。(松本委員)
- 規制による40年という数字が前面に出ているが、圧力容器などを除くほとんどの機器、配管が交換されていることを説明することで理解をいただけるよう努めるべきではないか。(小澤委員)
- 防災訓練は毎年度数回実施されているが、参加者のスキルや意識の向上、緊急時に用いる機器やシステムの動作確認、夜間の実施など、各回の特色について記載してはどうか。(田中委員)
- 美浜町全戸訪問は良い取組みである。40年以降の運転にとどまらず、原子力との共生についてのご意見もあると思う。せっかくいただいたご意見を地域との対話に活かし、有効に活用されたい。(山口副委員長)
- 人材育成について、監査において有効性を評価することは難しい。有効性の評価をどうするかを考えてほしい。(小澤委員)
- 下期監査では労働災害対策を評価するとのことだが、労働災害に至る原因は上期にも存在していたはずなので、監査のあり方を見直していく必要がある。(荒木委員)
- 労働災害発生を踏まえ、下期はしっかり監査してほしい。(山口副委員長)
- 40年以降の運転への不安の意見があるとのことだが、40年以降の運転についての説明に必要な知識を社員で共有すべきではないか。(松本委員)
- 40年以降の運転について潜在的な不安の意見がなくなっていないことについて、統一した説明も重要であるが、それぞれ住民の方々の不安の内容をよく聞くことによって、説明の仕方についても配慮いただきたい。(渡邊委員長)

2. 美浜発電所3号機事故の再発防止対策の取組状況

美浜発電所3号機事故の再発防止対策の取組状況について報告し、審議。
主な意見は以下のとおり。

- 安全対策で最後に残るのは教育である。ベテランでも間違えることもある。慣れや経験が邪魔をすることもあるのでしっかりと取り組んでほしい。(小澤委員)

- 事故から15年が経過し、美浜発電所3号機事故再発防止対策が定着している。15年経って社員の意識の変化はあるか、教えてもらいたい。(山口副委員長)

以 上